京都市感染症週報

京都市感染症情報センター(京都市衛生環境研究所)

https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000175159.html

◆ 今週のコメント

(1月3日~1月9日)

新型コロナウイルス感染症の報告が559例(男性278例(10歳代19例,20歳代107例,30歳代55例,40歳代26例,50歳代15例,60歳代17例,70歳代13例,80歳代15例,90歳代1例,年齢非公開10例),女性268例(10歳代16例,20歳代83例,30歳代36例,40歳代28例,50歳代32例,60歳代13例,70歳代19例,80歳代21例,90歳代14例,年齢非公開6例),性別及び年齢非公開13例)あり,本年の累積報告数は578例になりました。

本感染症の最新の動向及び詳細については下記URLをご参照ください。

- ○新型コロナウイルス感染症 最新の動向 https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000268303.html
- ・ A型肝炎の報告が1例(20歳代女性)あり,症状は全身倦怠感,発熱,食欲不振,黄疸等です。感染地域は国外, 感染経路は経口感染です。本年初めての報告例です。
- ・ レジオネラ症(肺炎型)の報告が1例(50歳代男性)(第52週追加報告分)ありました。症状は発熱,呼吸困難,意 識障害等です。本年初めての報告例です。
- ・ インフルエンザは、市内69の定点医療機関からの報告はありませんでした。全国でも報告数は極めて少なく(定点 医療機関数約5,000から50例の報告)、現在のところ流行の兆候はありません。 京都市のインフルエンザの発生状況は下記のホームページをご参照ください。
 - ○京都市のインフルエンザの発生状況(衛生環境研究所)
 - https://www.citv.kvoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000102856.html

◆ 今週のトピックス: <梅毒>

2021年,本市において梅毒は78例報告され,1999年の感染症法施行以降最高となりました。全国でも報告数は7,873例と最高になり,人口10万人あたり約6.3人が梅毒に感染したと推定されます(京都市は人口10万人あたり約5.4人)。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・二類:結核 3例(肺結核 なし, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 2例)うち喀痰塗抹陽性 なし) 【1月以降の累積報告数 3例(肺結核 なし, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 2例)うち喀痰塗抹陽性 なし】
- ・新型コロナウイルス感染症 559例【1月以降の累積報告数578例】
- ・四類:A型肝炎 1例【1月以降の累積報告数 1例】
- ・四類: レジオネラ症 1例【1月以降の累積報告数 1例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンサ゛	インフルエンザ	0.00	0
小児科	① 感染性胃腸炎	4. 47	192
(降順5位まで)	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0. 30	13
	③ 咽頭結膜熱	0. 23	10
	④ 突発性発しん	0. 16	7
	⑤ 手足口病	0. 14	6
眼科	流行性角結膜炎	0.00	0

【次ページ以降の主な内容】

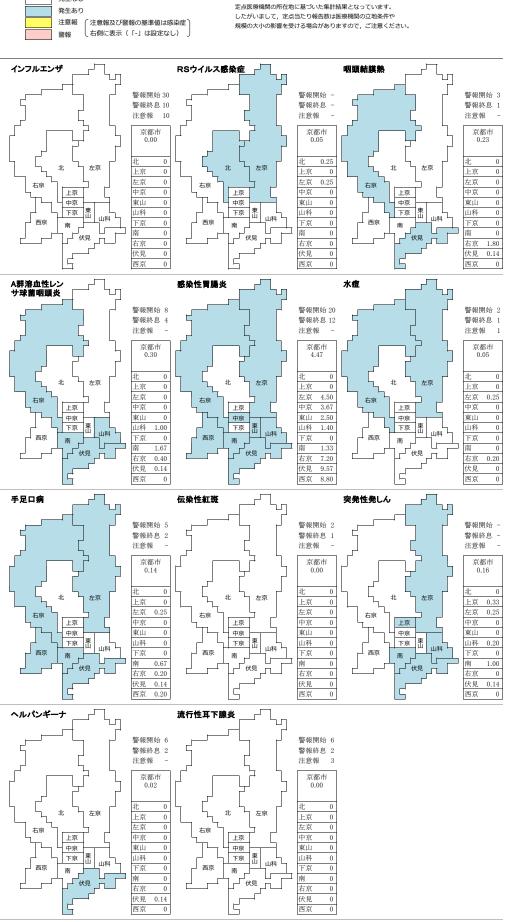
発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス: <梅毒>付表(疾病,行政区別報告数 / 年齢階級,疾病別報告数 / 週,疾病別報告数)

⁽注)京都市のデータは、2022年1月12日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

また,本情報での患者数は,届出医療機関所在地での集計で,患者の住所を示すものではありません。

[※]感染地域及び感染経路については推定を含みます。

発生なし



第1週(1月3日~1月9日) トピックス: <梅毒>

2021年,本市において梅毒は78例報告され,1999年の感染症法*施行以降最高となりました。全国でも報告数は7,873例と最高になり、人口10万人あたり約6.3人が梅毒に感染したと推定されます(京都市は人口10万人あたり約5.4人)。本市と全国の梅毒の推移をみると、2010年代前半までほぼ一定で推移してきましたが、2010年代後半から爆発的に増加しました(図1,2)。その後、2020年にはやや減少していましたが、2021年には急増しています。

本市の報告例を性別・年齢階級別に見ると,男性は20~50歳代と幅広い年齢層に広がっており,全体的に女性に比べ男性が多く,総報告数の男女比もおよそ6:4となっています。一方,女性は20~40歳代と比較的若年層に集中しており,特に20歳代では男性より多くなっています(図3)。感染経路についてみると,全体の3/4以上が異性間の性的接触でした(図4)。

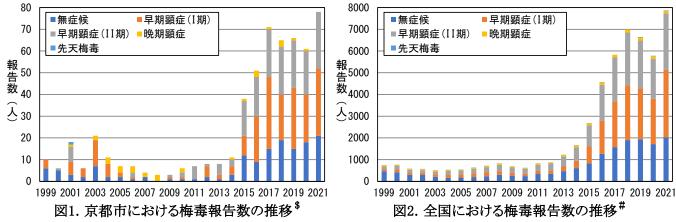
梅毒の原因は梅毒トレポネーマ(*Treponema pallidum*)という螺旋菌で、コルク抜きに似た細長い螺旋状の細菌です。その亜種のひとつである*T. pallidum* subsp. *pallidum*のみが梅毒を引き起こし、その他の亜種はフランベジアなどの性感染症ではないトレポネーマ感染症の原因となります。トレポネーマは人工培地での培養ができないため、詳しい生態は分かっていません。

梅毒の感染経路は主に性的接触で、性器や口、肛門の粘膜または皮膚を介して感染します。他に、輸血または 血液製剤の投与によって感染することや、妊婦が感染した場合に胎盤を通じて胎児に感染すること(先天梅毒)も ありますが、現在の日本ではどちらも稀になっています。

感染後3~6週間は潜伏期であり症状はありませんが、その後、様々な症状が徐々に現れます。初期(早期顕症 I期)には感染した部位に硬いしこり(初期硬結)ができ、やがて崩れて潰瘍になります(硬性下疳)。現在の日本ではほとんど見られませんが、同じように陰部に潰瘍ができる「軟性下疳」という別の性感染症があるため「硬性」下疳と呼ばれます。硬性下疳は潰瘍が比較的硬く、痛みはないことが多いのが特徴です(軟性下疳は硬性下疳よりも柔らかく、痛みが非常に強いのが特徴です。なお「下疳」とは陰部にできる潰瘍のことを指します)。

治療せずともこれらの症状は一旦治まりますが、それから症状は血流を介して全身に広まります。4~10週間の潜伏期の後、全身の皮膚に発疹や膿疱、白斑、桃色の痣(バラ疹)ができたり、脱毛したりします(早期顕症II期)。そのまま治療せず放っておくと、数年で様々な部位にゴムのように硬いしこり(ゴム腫)ができるようになり、さらに十年以上の長い時間をかけて血管系や中枢神経系が侵され、最終的には死に至ります(晩期顕症)。

梅毒は早期に発見できれば抗生剤で治療できますが、症状が治まったりぶり返したりを繰り返すため、治ったと勘違いして治療が遅れてしまうことがあります。また、感染してから治療が終わっても、ヒトは梅毒に対して有効な免疫を得られないため、再感染を予防できません。また、梅毒のワクチンはありませんが、コンドームの使用はある程度感染を予防できると言われています。しかし完全に予防できるわけではないので、皮膚や粘膜に異常があるときは性行為を控えることが重要です。



※10歳未満と80歳以上の発生はなかった。
10歳代
20歳代
30歳代
40歳代
50歳代
60歳代
70歳代

図3. 京都市の性別・年齢階級別 梅毒報告数(2021年)

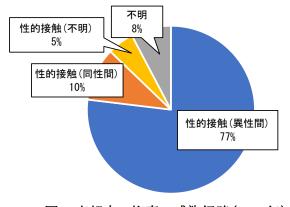


図4. 京都市の梅毒の感染経路(2021年)

T3201

集計対象:2022年第1週

疾病 行政区别報告数

2022年1月3日~2022年1月9日

データ入手日・2022年1月12日

疾病,行政区别	S 別報告数 2022年1月3日~2022年1月9日											データ入手日:2022年1月12日								
男女合計	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎の性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (※3)	感染性胃腸炎(※4)		
北	_	1	-	-	_	_	1	_	_	-	-	_	_							
上京	_	_	-	-	_	-	-	_	1	-	-	-	_							
左京	_	1	_	-	18	1	1	_	1	_	-	-	_							
中京	_	_	_	-	11	_	-	_	_	_	-	-	_	_	-	_	_	_		
東山	_	_	_	_	5	_	-	_	_	_	_									
山科	_	_	_	5	7	_	_	_	1	_	_	-	_							
下京	_	_	ı	-	_	_	-	ı	_	_	-									
南	_	_	-	5	4	_	2	_	3	_	-									
右京	_	_	9	2	36	1	1	_	-	-	-	-	_							
伏見	_	_	1	1	67	_	1	-	1	1	-	_	-							
西京	_	-	ı	1	44	_	1	ı	-	_	1	ı	-							
京都市計	_	2	10	13	192	2	6	-	7	1	1	_	-	_	_	1	1	_		
疾病,行政区别	川定占当	たり報告	松		-							-		-				-		
男女合計	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (※3)	感染性胃腸炎(※4)		
北	_	0.25	_	_	-	_	_	_	_		_	-	_							
上京	_	-	_	_	-	-	-	_	0.33		_	-	_							
左京	_	0.25	_	_	4.50	0.25	0.25	_	0.25	_	_	-	_							
中京	_	_	_	_	3.67	_	_	_	-	_	_	-	_	_	_	_	_	_		
東山	_	_	_	-	2.50	_	_	_	-		_									
山科	_	_	_	1.00	1.40	_	_	_	0.20	_	_	-	_							
下京	_	_	_	-	-	_	_	_	-	_	_									
南	_	_	-	1.67	1.33	-	0.67	_	1.00	_	_									
右京	_	_	1.80	0.40	7.20	0.20	0.20	_	_	_	_	-	_							
伏見	_	_	0.14	0.14	9.57	_	0.14	_	0.14	0.14	_	-	_							
																		- 1		
西京 京都市計	_	0.05	0.23	0.30	8.80 4.47	0.05	0.20	_	- 0.16	0.02	_	-	_							

^{※1} インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

^{※2} 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

^{※3} クラミジア肺炎はオウム病を除く。 ※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2022年第1週

年齢階級,疾病別報告数

2022年1月3日~2022年1月9日

データ入手日:2022年1月12日

京都市	年齢1	総数	~5ケ月	~11ケ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
	年齢2	総数	~5ケ月	~11ケ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	~5ケ月	~11ケ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
男女合計	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ (※1)	年齢1	-	_	-	-	-	-	-	_	-	-	-	-	-	_	-	-	-	-	-	_	-
RSウイルス感染症		2	1	-	-	-	1	-	_	-	_	-	-	-	_	-						
咽頭結膜熱		10	_	-	5	2	2	1	_	-	-	-	-	-	_	-						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		13	_	-	3	_	1	-	_	1	1	-	-	5	_	2						
感染性胃腸炎	年齢3	192	5	13	27	35	27	20	9	5	6	4	3	16	3	19						
水 痘		2	_	_	-	_	1	_	_	-	-	-	-	1	_	_						
手足口病		6	_	_	2	2	1	_	1	-	-	_	-	_	_	_						1
伝染性紅斑		_	_	_	-	_	-	_	_	-	-	_	-	_	_	_						1
突発性発しん		7	1	2	4	-	-	-	_	-	-	-	-	-	_	-						
ヘルパンギーナ		1	_	_	1	_	-	_	_	-	-	_	-	_	_	_						1
流行性耳下腺炎		_	_	_	-	_	-	_	_	-	-	_	-	_	_	_						1
急性出血性結膜炎	年齢2	-	_	_	_	_	_	_	_	_	_	-	_	_	_	_	_	_	_	_	_	
流行性角結膜炎	4 選巾乙	_	_	-	-	_	-	_	_	-	-	-	-	-	_	-	-	-	-	-	-	
細菌性髄膜炎 (※2)		-	_	-	-	-	-	-	_	-	-	-	-	-	_	-	-	-				
無菌性髄膜炎		_	_	-	_	-	-	-	_	-	_	-	_	-	_	-	_	-				
マイコプラズマ肺炎	年齢4	_	_	_	_	-	_	_	-	_	_	_	_	_	_	_	_	_				
クラミジア肺炎 (※3)		_	_	_	_	-	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_				
感染性胃腸炎 (※4)		_	_	_	_	-	_	_	_	_	_	_	-	_	_	_	_	_				
		•	•	•										•						•		

年齢階級,疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	~5ケ月	~11ケ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
	年齢2	総数	~5ケ月	~11ケ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	~5ケ月	~11ケ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
男女合計	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ (※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	_	-	-	-
RSウイルス感染症		0.05	0.02	_	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
咽頭結膜熱		0.23	-	_	0.12	0.05	0.05	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.30	-	_	0.07	-	0.02	-	-	0.02	0.02	-	-	0.12	-	0.05						
感染性胃腸炎		4.47	0.12	0.30	0.63	0.81	0.63	0.47	0.21	0.12	0.14	0.09	0.07	0.37	0.07	0.44						
水 痘	 年齢3	0.05	_	_	_	-	0.02	_	_	-	-	_	_	0.02	_	_						
手 足 口 病	平断3	0.14	_	-	0.05	0.05	0.02	-	0.02	-	_	-	_	-	_	_						
伝染性紅斑		_	-	_	_	-	_	-	_	_	_	-	_	_	_	_						
突発性発しん		0.16	0.02	0.05	0.09	-	_	_	_	-	-	_	_	_	_	_						
ヘルパンギーナ		0.02	_	_	0.02	-	_	_	_	-	-	-	_	_	_	_						
流行性耳下腺炎		_	-	_	_	-	_	_	_	-	-	-	_	_	_	_						
急性出血性結膜炎	左 收 o	_	_	_	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	_	_	_	
流行性角結膜炎	年齢2	_	-	_	_	-	_	_	_	-	-	-	_	_	_	_	_	_	_	_	_	
細菌性髄膜炎 (※2)		_	-	_	_	-	-	_	_	-	-	-	_	_	_	_	_	_				
無菌性髄膜炎		_	-	_	_	-	-	_	_	-	-	-	_	_	_	_	_	_				
マイコプラズマ肺炎	年齢4	_	_	_	-	-	-	-	-	-	-	-	-	_	-	-	-	-				
クラミジア肺炎 (※3)		_	_	-	_	-	-	-	_	-	_	-	-	-	-	-	_	-				
感染性胃腸炎 (※4)		_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_				

- ※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。
- ※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。
- ※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。
- ※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

T3203

集計対象:2022年第1週

週,疾病別報告数

データ入手日:2022年1月12日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	_	_	_	1	_	_
RSウイルス感染症	1	_	-	1	4	2
咽頭結膜熱	4	7	7	10	4	10
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	15	15	9	19	5	13
感染性胃腸炎	323	390	443	452	176	192
水 痘	11	5	4	1	6	2
手足口病	88	70	83	60	24	6
伝 染 性 紅 斑	_	1	1	1	1	1
突発性発しん	12	10	9	9	5	7
ヘルパンギーナ	22	6	6	13	9	1
流行性耳下腺炎	_	3	1	1	2	-
急性出血性結膜炎	_	-	-	-	_	_
流行性角結膜炎	_	1	2	2	2	-
細菌性髄膜炎 (※2)	_	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	_	_	_	-	_	1
マイコプラズマ肺炎	_	_	-	-	-	1
クラミジア肺炎 (※3)	_	_	_	_	_	_
感染性胃腸炎 (※4)	_	_	_	_	_	_
合 計	476	507	564	568	237	233

週,疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	_	ı	ı	0.01	-	_
RSウイルス感染症	0.02	ı	ı	0.02	0.09	0.05
咽頭結膜熱	0.09	0.16	0.16	0.23	0.09	0.23
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.35	0.35	0.21	0.44	0.12	0.30
感染性胃腸炎	7.51	9.07	10.30	10.51	4.09	4.47
水 痘	0.26	0.12	0.09	_	0.14	0.05
手 足 口 病	2.05	1.63	1.93	1.40	0.56	0.14
伝染性紅斑	_	-	_	_	_	_
突発性発しん	0.28	0.23	0.21	0.21	0.12	0.16
ヘルパンギーナ	0.51	0.14	0.14	0.30	0.21	0.02
流行性耳下腺炎	_	0.07	0.02	0.02	0.05	_
急性出血性結膜炎	_	ı	ı	ı	-	_
流行性角結膜炎	_	0.10	0.20	0.20	0.20	_
細菌性髄膜炎 (※2)	_	ı	ı	ı	ı	_
無菌性髄膜炎	_	1	_	-	_	_
マイコプラズマ肺炎	_	_	_	_	_	_
クラミジア肺炎 (※3)	_	_	_	_	_	_
感染性胃腸炎 (※4)	_	-	_	_	_	_
合 計	11.07	11.87	13.27	13.35	5.67	5.42

- ※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。
- ※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。
- ※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。
- ※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。